

ピアノ・ジュビントコンサート

富田理子 米川雅子

富田理子・米川雅子ピアノジュビントコンサートを今年も八王子芸術文化劇場いちようホール小ホールで開催しました。2回目ということもあり、ほどよい緊張とリラククスが交差する詩情豊かな時が会場に流れました。今年も指揮者富田邦明氏にコンサート当日の様子、演奏曲について寄稿していただきました。

今年も夢空間 La Musica 主催による「富田理子・米川雅子連弾コンサート」が開催されました。当日の8月6日は、八王子祭りの開催日という事で演奏会前から色々な心配がありました。お客さんが来ないのではないかと、大渋滞なのではないかと、果てはお祭りの音が会場内に聞こえてきたらどうするかなんていうことまで……



中騒音がもれてくるということもなく、何より「お祭りだけど来て」という必死の呼びかけに応じてくれた皆さまのおかげで、暑い中たくさんのお客様にお越しいただき無事演奏会を終えることが出来ました。

ピアノは湿度が大敵

真夏の盛りで、温度とともに湿度も尋常ではありません。ピアノは、湿度に弱く、いちようホールの午前中のピアノの状態は悪かったようですが、早朝から調律師の方の必死の調整の甲斐もあって本番では無事に復活してくれました。

ビゼー 子供の遊び

ビゼーの「子供の遊び」より3曲です。前半は1を（舞台の手前）米川雅子が、2を（舞台奥）富田理子が担当です。

この曲は子供の……など称しているの導入には最適ということですが、どうしてどうしてなかな



夢空間 La Musica 4th

夢空間 La Musica は身近なところで生の音楽を聴く機会をたくさん作りたい。サロンコンサートの雰囲気味わえる空間を提供したい。聴くだけに留まらず、これから羽ばたこうとしている若い音楽家や経験豊かな円熟した音楽家との交流も楽しめるコンサートを実現したい。これらの思いを形にしたのが夢空間 La Musica です。音楽家たちと二人三脚で八王子に音楽の森を創出しようとい日々を歩んでいます。

か一筋縄ではいかない曲集です。形にするのに予想以上に苦労したようです。よく聴いていくと色々なところにカルメンの息吹を感じることが出来る曲です。全部で二曲ある曲集の中からこの日は「こま」と「回転木馬」「舞踏会」の3曲が演奏されました。

フォーレ 「ドリ」組曲

フォーレの「ドリ」組曲 連弾の中では有名な曲で、よく使われる曲でも使われている曲もある。この曲の題名は知らなかったけど聞いてみたら、という方が多かったのではないのでしょうか。フォーレはレイクエムが有名で、エレジーやシチリアーナなども名曲で、これらもテレビなどから何気なく流れていて耳にしている方も多しはずです。そんなフォーレの曲です。ベートーヴェンのように全身全霊で聞かなければならない何かお説教のような雰囲気はなく、空気に溶け込んでいくような、時間の流れがゆったりとするような6曲は夏の日にはぴったりだったような気がしました。

ソロステージは ショパンワルツ

トップバッターの米川が情感たっぷりにノクターン弾き、

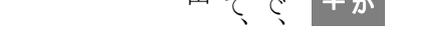


あつとあつとという間に客席はショパンワルドに変わりました。今回は二人とも圧倒的人気のショパンでまとめてみました。「別れの曲」を弾き今度は、富田に変わって、「バラード」では秘めた情熱がクライマックス向かって、お客様のウォールテージを上げ、ご存知の「英雄ポロネーズ」を華やかに演奏したところで前半は終了です。



プリモ（1）とセカンド（2）が入れ替わった後半

後半の演奏は連弾だけで、前半と上下入れ替わって1を（舞台の手前）富田理子が、2を（舞台奥）米川雅子が担当です。まずはシューベルトの「幻想曲」からです。



この曲はプログラムにも書きましたが、隠れた名曲で恋の歌でもあります。シューベルトの亡くなる年に完成した曲です。このころのシューベルトは絶えず襲ってくる頭痛、貧困など悩みは尽きない時期だったはず。この恋も貴族のお嬢様に恋した訳ですから実らぬ恋であったはず。どこまでそんな気持ちを表現できるかと思っております。この日の演奏はまさにシューベルトの心が乗り移ったかのような演奏でした。二人はこの曲を仕上げるために相当時間を割いたということでした。いい演奏に拍手。

夢空間La Musicaより

アンケートに

「幻想曲」がとてもよかったとの記述がありました。二人の表現力と精進に敬意を表します。



二人のあうんの呼吸が素晴らしい
チャイコフスキー「くるみ割り人形」

実は、連弾というのは1台のピアノを2人で使わなければならず、ぎゅうぎゅう詰めに座って、片方の手は思いっきり伸ばせなかったりするわけですから終わった後も肩が凝ったりするようです。

実際に鍵盤を弾くに当たっても、例えばファの音を弾かなければいけない時に相手がミとソを弾いていて普通に弾いていてはその指にロックされてしまったたりするわけです。譜面をめくる時も去年だったらいつも2番ピアノがめくっていたところを今年は1番も2番も左手も右手も縦横無尽でした。曲の始まりなども気がついたでしょうが、普通「さん、ハイ」と口で言わないまでも首を動かして合図しますが、今回は全くそんな素振りさえ見せず、まさに阿吽の呼吸で曲が始められていたのです。「くるみ割り人形」は、オーケストラ曲でテンポの緩急や音の混み合う箇所も自由にコントロールした演奏を繰り広げてくれました。

夢空間La Musicaより
アンケートに

ピアノの「くるみ割り人形」がとてもよかった。オーケストラとはまた違う良さを感じました。との記述もありました。

熱い拍手に応えてアンコールとしてブラームス「ハンガリー舞曲第5番」が演奏されました。

富田 邦明・文

プログラムノートについて

夢空間La Musica

この通信同様、プログラムノートにつきましても、昨年に引き続き、指揮者富田邦明氏に執筆をしていただきました。

作曲者の内面、人間関係、時代背景などを巧みに織り込んだプログラムノートは、曲への興味はもちろんのこと、作曲家への興味、それを演奏者がどのように表現するのか、など読む人の創造力をかき立てます。

今回のプログラムノートについては次のような感想が寄せられました。

いつも思うのですが富田先生の解説（プログラムの）を読ませていただき、聴くと、その情景が浮かび、その中に自分がいるような不思議な錯覚をしてみようほです。（原文のまま）

コンサートを終えて

関東有数の山車祭りといわれる八王子まつり、今年の人出は八万人だったそうです。そのまっただ中の開催ということで、そもそもこのタイミングでコンサートを企画することに無理があったのではないかという思いを抱いたりしました。しかし、これは杞憂に終わりました。

ました。演奏者二人の対話（演奏）に耳を傾けるお客様、お客様からの声にならない声に後押しされるようにピアノに命を吹き込む演奏者・・・ホール内は豊かな音楽に満たされました。

ご来場いただきましたお客様の声です。

- ・子供の頃友達と練習した連弾を懐かしく思い出した
- ・選曲、演奏ともに素晴らしく大満足
- ・心に響く曲聴かせていただいて、とても素晴らしかった。元気が出ました
- ・連弾をしてみたいと思った
- ・富田先生、米川先生のピアノを聴いて私は感動しました

最後に、ピアノジョイントコンサートに向けて不断の精進を重ねられた富田理子、米川雅子両氏、プログラムノート、通信への寄稿をいただきました指揮者富田邦明氏に敬意と感謝を表します。

二〇一六年の予定

10月29日（土）アルフォーコゴゴス

Vol. III

11月26日（土）落語家も登場

音楽日本昔ばなし

詳細はHP等で順次案内いたします。

発行者

夢空間La Musica

岡部眞弓

電話：060-6103-62008

E-MAIL: info@yumekukan.net

ホームページ:

http://www.yumekukan.net/

